

12月議会 定例会

健康保養館 給水施設の漏水で一時休館 一等米比率は97.8%に回復

平成30年12月議会定例会が12月11日から14日までの4日間にわたり開催され、一般会計補正予算など上程された14案件について原案どおり可決されました。

御功績が認められ、表彰されたものであります。

菊池議長が表彰されましたことに対しまして、心からの敬意を表すると共にお祝いを申し上げます。



行政報告

◇秋田県自治功労者

本町から藤里町議会議長の菊池博悦氏が表彰されておりましたのでご報告を申し上げます。

菊池議長は、昭和63年3月に藤里町議会議員に当選され、長きにわたり、藤里町ひいては地方自治の進展に寄与された

◇農業関係について

平成30年産米の集荷状況についてであります。JAあきた白神藤里営農センターの11月21日現在における集荷実績によりますと、30kg単位での予約数量、75,049個に対し、集荷数量は、64,440個（集荷率85.9%）となっております。

今年度は、田植作業の適期である5月下旬と、分けつが促進される6月中旬の気温が、平年に比べ低めに推移したことや、6月下旬の日照不足により有効茎数の確保ができず、穂数が少なくなっております。また、出穂期となった8月6日頃や、

お盆過ぎの8月18日頃には、稲の生育に支障が出ると言われる気温15度前後となったことが原因で登熟不足となり、収穫量の減少に繋がったと分析しております。

国が発表している秋田県の作況指数につきましても、当初は「やや不良」の98と発表されていたものが、10月31日の発表で96に下げられたことから、収穫段階になって思ったより収量が無いという農業者が多かったと伺っております。

また、昨年度の1等米比率が86.4と低迷したことから、私共も強い危機意識を持っておりましたが、病害虫一斉防除事業の町補助率を15%に拡大するなど、支援を拡充したところ、農業者の皆様のご努力もあり、本年度は97.8に回復いたしております。

次に、平成31年産米の需要見通しに關しましては、11月28日公表されました、国の基本方針の中では、主食用米の適正生産量は718万t、726万tとされ、30年産米の適正生産量735万tと比較し、最大17万t減と推計されております。

そのことを受けまして、秋田県では、全国における県産米のシェア率や、適正在庫量、直近の販売状況を踏まえ、県全

体の「生産の目安」を、全県担当者会議で示す見込みであります。

今後、町全体の生産数量の目安につきましては、町で算定作業を進め、結果を町農業再生協議会に提示することとしております。その後は、方針作成者であるJAの米販売予定数量と調整しながら、協議会臨時総会の決定を経て、2月頃、町の「生産の目安」として公表される予定であります。

一方、畑作等の生産状況についてであります。10月末現在、ネギの生産量は、目標の9.2t、3,394千円に対し、3.74t、1,708千円となり、青果物全体につきましても、目標の22.25t、13,522千円に対し、5.59t、3,041千円と減少しております。今後出荷が始まる「山うど」と「アスパラガス」に期待しております。

取り組み開始から9年目となりましたりんどうにつきましては、採花面積が377.5aで昨年より43.5a増加しておりますが、採花本数は553,025本と4万3千本ほど減少しており、単価は昨年度並の45.9円でありましたが、販売額については、25,406千円で2,446千円の減となりました。減収の要因としては、当初に導入した苗の老化にありますが、現在、順次更新しているところでありまして、今後も優良産地として、市場での競争力を維持できるよう支援して参ります。

次に、ニホンザルによる農作物の被害防止についてありますが、鳥獣被害対策実施隊による週2度の巡回や職員によ